

【家庭科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 衣食住や家族の生活に関する基本的知識は、体験を通して身に付けさせることで習得できている。
- 裁縫実習には意欲的に取り組む児童が多く、基本的知識や技能を身に付けることができた。
- △裁縫実習では、生活経験が少ないことから、児童によって基本的知識や技能の定着に差が出てしまった。そのため、学習したことを家庭で実践したり振り返ったりすることにより、定着を図る必要がある。
- △児童の中には、主体的に学ぶ意欲に欠ける様子も見られるため、教科書の例のみで学ぶのではなく、家庭にも協力を仰ぎ、自分自身や友達の生活を基にした事例を通して、生活改善について考え、話し合いながら学べるようにする必要がある。

2 学習状況の分析と課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	<p>衣食住や家族の生活に関する基礎的な事項について学んだ事柄は知識としては定着している。</p> <p>一方、家庭での生活様式の違いにより、生活の技能の差は大きい。全く未経験の児童や始めから目的意識の薄い児童は、基本的な道具の使い方の習得に時間がかかる。</p> <p>第5学年：玉止め・玉結びなど、裁縫の基本的な技能の習得に時間がかかる。</p> <p>第6学年：5年時に経験のある技能は再度学習することで定着している。しかし、それを自分で活用する力には個人差がある。</p>	<p>多くの児童は、便利なものに囲まれて家族にやってもらうことに慣れてしまっている生活環境にあり、自らよりよい生活を工夫しようとする必要性を感じている児童は少ない。</p> <p>また、家庭で実際に自分の生活を工夫する機会が少ない児童が多い。</p>	<p>裁縫実習は、意欲的に取り組み、自主的に行う児童と、上手くできずに集中力や意欲が途切れてしまう児童の二極化が見られた。裁縫が得意な児童は、家庭や休み時間にも自主的に楽しんで活動している様子が見られる。</p> <p>自分の生活や衣食住に対する関心には個人差がある。学校での学習により家庭生活を改善しようという意欲は高まっているが、実践する家庭の協力が得られなかったり児童の時間的余裕がなかったりすることが多い。また、実践をする機会があっても、継続的に続けることができず、その場限りの体験になってしまっている児童も多い。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の生活とよりよい衣食住について、主体的に関わり、自分の生活と関連付けながら考えようという関心を高めること。 ・衣・食・住に関する基本的知識や基礎的技能を、体験を通して身に付け、定着・活用できるようにすること。 		

3 授業の具体的な改善策

教科目標	<p>学習指導要領の教科の目標</p> <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 家庭生活を大切にす的心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。</p>
全体	<p>教科書の例のみで学ぶのではなく、家庭にも協力を仰いで、実際に自分自身や友達の生活を基にした事例を通して生活改善について考え、話し合いながら学べるようにすることで、より主体的で深い学びになるように工夫する。</p>
学年段階別改善策	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活を振り返り自らの生活課題を見付けて、その解決や改善に具体的に主体的に取り組もうとする意欲をもてるよう、単元の導入や授業の流れを生活との関連性を重視して工夫する。 ・基本的な技能を確実に定着させ、家庭科に対する苦手意識をなくせるように、裁縫や調理などの活動の時間を確保し、丁寧に取り組ませる。裁縫では、縫い糸を使用する前に、縫い方が視覚的に捉えやすい毛糸を使用するなど、段階的に学ばせることで、基礎的技能の定着を図る。 ・家庭の協力を仰ぎ、学習したことを家庭で実践したり振り返ったりすることにより定着を図れるようにする。長期休業などには、家庭生活の中で児童が役割意識をもって実践できるような取り組みを行えるよう、協力を仰いでいく。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちがもうすぐ中学生になることや、大人に近づいていることを意識させ、自立への道筋という視点をもたせることで、主体的に自らの生活を改善していこうという意識を高めさせる。 ・実習では、グループやペアで協力しながら取り組ませることで、協働的に学ぶ工夫をし、主体的に課題に取り組み、協力して課題を解決する力を高められるようにする。 ・家庭の協力を仰ぎ、学習したことを家庭で実践したり振り返ったりすることにより、技能や知識の定着を図るとともに、生活改善への意欲・実践力が高まるようにする。